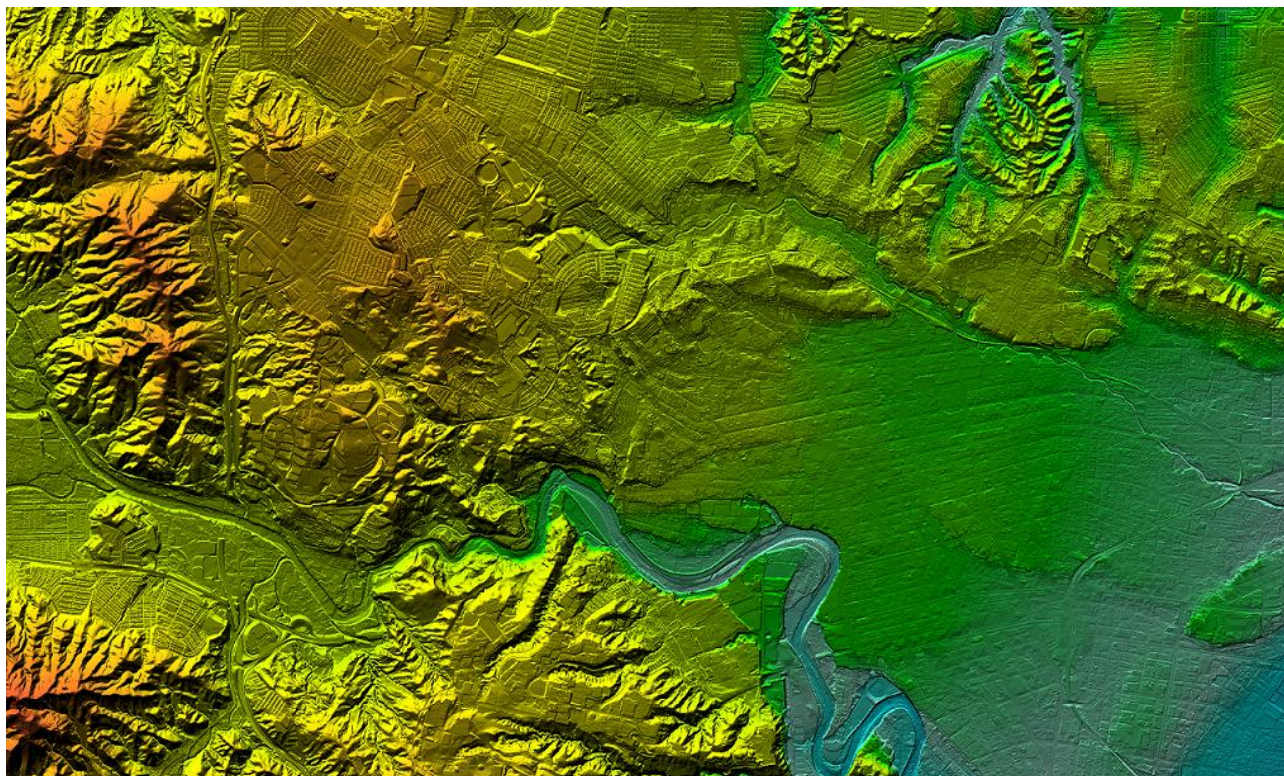




新たに公表した仙台市周辺の基盤地図情報(数値標高モデル)1mメッシュ(標高)

CONTENTS

1. 令和8年測量士・測量士補試験のご案内	2
2. G空間EXPO2026において国土地理院も各種イベントを開催	3
3. 「1mメッシュ(標高)」と「点群データ」の範囲を拡大しました	4
4. 「ぼうさいこくたい2025 in 新潟」に参加	5
5. 教科書・教材出版社への国土地理院の取組の周知のための説明会を開催	6
6. 第249回地震予知連絡会の開催概要	7
7. 2025年日本第四紀学会 若手・学生発表賞を受賞	8
8. 「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数	9
9. 11月の報道発表・1月の主な行事予定	9

令和8年測量士・測量士補試験のご案内

令和8年測量士・測量士補試験を令和8年5月17日(日)に実施します。

本年より受験案内(願書)の配布時期を早め、令和7年12月17日から配布を開始しております。

願書の受付は書面申請・電子申請(オンライン)ともに令和8年1月5日(月)から行います。

なお、願書の受付期間は令和8年1月22日(木)までとなっており、昨年より早く終了しますので、早めの申請手続きをお願いします。

1 試験日時及び試験地

(1)試験日時

①測量士試験 令和8年5月17日(日)
午前10時から午後4時まで

②測量士補試験 令和8年5月17日(日)
午後1時30分から午後4時30分まで

(2)試験地

北海道、宮城県、秋田県、東京都、新潟県、
富山県、愛知県、大阪府、島根県、広島県、
香川県、福岡県、鹿児島県、沖縄県

※会場確保の都合上、やむを得ず近隣府県に試験会場を変更又は追加する場合があります。

2 受験手続

(1)受験案内(願書)の配布

受験案内(願書)は、令和7年12月17日から、次の場所において配布しております。

◎国土地理院本院及び地方測量部・支所

◎各都道府県の土木関係部局の主務課

◎公益社団法人日本測量協会本部・各支部

郵送により請求する場合は、封筒の表に「願書請求〇部」と朱書きし、宛先明記の返信用封筒(角形2号以上)に必ず所要の切手を貼って同封してください。

ただし、都道府県の土木関係部局の主務課、公益社団法人日本測量協会本部・各支部では郵送の取扱いはしません。

(2)受験願書受付場所

国土地理院総務部総務課

(〒305-0811茨城県つくば市北郷1番)

(3)受験願書受付期間等

令和8年1月5日(月)から1月22日(木)

午前8時30分から午後5時15分

なお、追跡できる郵送の場合は1月22日(木)までの日付の消印があるもの、追跡できない郵送(普通郵便、後納郵便、別納郵便等)の場合は1月22日(木)までに到着したものに限り受け付けます。

オンライン(電子申請)の場合は、オンライン上での申請後、1月22日(木)までに受験料が納付されたものに限り受け付けます。

3 合格発表及び通知

測量士:令和8年7月9日(木)

測量士補:令和8年6月25日(木)

国土地理院ホームページに合格者の受験番号を掲載します。

また、全受験者宛てに試験の結果(合否)を通知します。

4 試験問題等の公表

国土地理院ホームページにおいて、試験日の翌日以降、試験問題及び解答を掲載します。

5 その他

オンラインによる申込方法や試験に関する手続等は、国土地理院ホームページで案内しておりますので、ご確認ください。

国土地理院ホームページ

https://www.gsi.go.jp/LAW/R8shiken_00001.html

6 試験に関する問合せ先等

国土地理院総務部総務課試験登録係
問合せフォーム

<https://www.gsi.go.jp/contactTop.html>

測量士 令和8年試験
測量士補

■試験日
令和8年
5月17日(日)

■受験願書配布期間
令和7年 12月17日(日)～
配布開始が早まりました

■受験願書受付期間
令和8年 1月5日(月)～1月22日(木)
※願書の早期提出に御協力ください。

■試験への申込みは
オンラインでも可能です。

■合格発表日
測量士 令和8年 7月 9日(木)
測量士補 令和8年 6月25日(木)

詳しくは、こちら
https://www.gsi.go.jp/LAW/R8shiken_00001.html

国土交通省 国土地理院

(総務部)

G空間EXPO2026において国土地理院も各種イベントを開催

「G空間EXPO2026」が令和8年1月28日(水)～30日(金)に東京ビッグサイト(東京都江東区)で開催されます。その中で、国土地理院は「Geoアクティビティコンテスト」、「地理院地図パートナーネットワーク会議」等を開催します。

○G空間EXPO2026

産学官民の連携により、地理空間情報の活用の有効性や最新技術の動向に係る講演、展示、シンポジウムを行うことで最新の地理空間情報技術の活用推進及び普及啓発を図るイベント、「G空間EXPO2026」を開催します。前回に引き続き、国際宇宙産業展、防災産業展、グリーンインフラ産業展と同時開催します。

<開催概要>

日時: 令和8年1月28日(水)～30日(金)

10:00～17:00

※オンライン開催

令和8年1月21日(水)～2月13日(金)

<https://springfair.nikkan.co.jp/>

会場: 東京ビッグサイト

東7, 8ホール

入場登録: 入場無料/登録制
右の2次元コード(日刊工業新聞社(共催者)4展 合同サイト)より登録可



【入場登録サイト】

以下、国土地理院関連のイベントを紹介します。

○Geoアクティビティコンテスト

地理空間情報を活用した独創的なアイデア、新たなサービス等を一般から広く募集し、優良事例を表彰するイベントで、14回目の開催となります。今回は高校生・大学生から一般の方まで多様な作品の応募があり、そのうち10点が選考を通過しました。

G空間EXPO2026の会場内に、展示ブースが常設され、1日2回、出展者によるプレゼンテーションが行われます。最終日の30日(金)午後

には、出展者セミナー会場において表彰式を行います。来場者の投票で決まる来場者賞も設ける予定ですので、ぜひ投票にもご参加ください。

○国土地理院施策紹介ブース

正確な位置情報の整備やデジタル社会の基盤となる3次元地図の整備など、国土地理院における地理空間情報社会の推進に向けた取り組みについてご紹介します。

○第17回地理院地図パートナーネットワーク会議

地理院地図及び地理空間情報の活用に関する情報共有を目的に、国土地理院及び地理院地図パートナーによる発表を行います。

1月28日(水)13:00から東京ビッグサイト会議棟7階703会議室において開催します。

○4展合同講演「未来を拓く持続可能な社会のデザイン～防災×グリーンインフラ×宇宙×G空間技術の最前線」

29日(木)15:30～16:50にメインステージにおいて、共催者であり、同時開催展主催者である日刊工業新聞社により開催され、持続可能な社会の実現に向けて、防災×グリーンインフラ×宇宙×G空間それぞれの技術の最新動向と今後の連携のあり方を探ります。

各展からの講演が予定されており、G空間EXPOからは国土地理院防災・地理空間情報企画センター地理空間情報企画課の職員が「持続可能な社会を支えるG空間情報」について講演します。

最新の情報については、G空間EXPO公式サイト(<https://www.g-expo.jp/>)のほかX(@g_expo)をぜひご覧ください。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

(地理空間情報部、防災・地理空間情報企画センター)

「1mメッシュ(標高)」と「点群データ」の範囲を拡大しました

航空レーザ測量データを基に作成した基盤地図情報(数値標高モデル)1mメッシュ(標高)の提供範囲を10月31日に、点群データの刊行範囲を11月28日に拡大しました。1mメッシュ(標高)は、地表面の高さを0.04秒(約1m)間隔で取得したデータです。点群データは、建物や植生を含む計測点の集合データ(1m²あたり4点以上)です。

○ 1mメッシュ(標高)

1mメッシュ(標高)は、令和5年11月に提供を開始し、今回が3回目の範囲拡大となります。新たに提供した主な範囲は、東京23区、北海道オホーツク海沿岸、宮城県、栃木県、京都府、岡山県、香川県など(図1)で、これにより、提供する3次メッシュの割合は約61%(海部や一部未整備エリアが含まれるため、実整備面積は国土の5割弱)となりました。引き続き、令和7年度末に青森県、山形県、山梨県、長野県などの一部地域について追加を予定しています。

また、1mメッシュ(標高)を新たに提供した範囲については、5mメッシュ(標高)も更新・提供されています。いずれも、基盤地図情報のサイト(<https://www.gsi.go.jp/kiban/>)から無償で入手可能です。

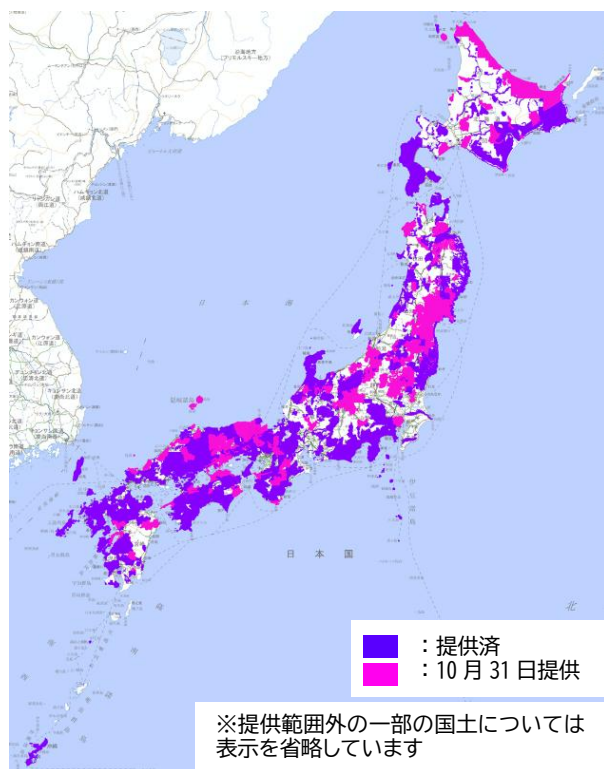


図1 1mメッシュ(標高)の提供範囲

○ 点群データ

点群データは、令和7年2月に刊行を開始し、今

回が初の範囲拡大となります。11月28日に拡大した範囲は、北海道渡島・檜山地方、岩手県・宮城県の沿岸部、石川県能登地方及び新潟県中越地方など(図2)で、これにより刊行の面積は約15,000km²となりました。引き続き、令和7年度末に北海道日高、十勝、釧路、根室地方の追加を予定しています。

点群データは3次メッシュ単位で作成しており、2次メッシュ単位でUSBメモリに格納して販売しています。価格は2次メッシュあたり13,900円(税込)で、(一財)日本地図センターのWebサイト(<https://net.jmc.or.jp/mapdata/3d/tengun.html>)から購入できます。

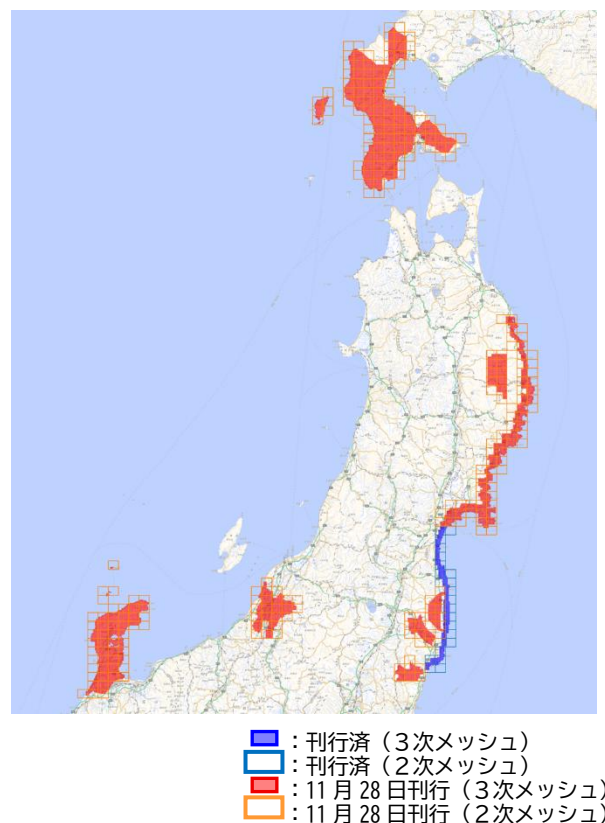


図2 点群データの刊行範囲

両データの活用により、浸水・景観など各種シミュレーションの高精度化や、防災・減災及び復旧・復興に資することが期待されます。

(基本図情報部)

「ぼうさいこくたい2025 in 新潟」に参加

防災推進国民大会2025実行委員会(内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議)主催の「ぼうさいこくたい2025 in 新潟」(防災推進国民大会)が新潟市の朱鷺メッセで開催され、北陸地方測量部はブース展示に参加しました。

■ イベント概要

- ・日程:令和7年9月6日、7日
- ・会場:朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
- ・出展団体:約470団体
- ・来場者:約19,000人
- ・テーマ:語り合い・支え合い～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～
- ・開催趣旨:国民の防災意識の向上、災害に関する知識や経験等の共有、防災に取り組む方々の連携構築を図る



会場外観 朱鷺メッセ

■ ブース展示

北陸地方測量部は「地図から学ぶ災害リスク！～国土地理院の災害対応と災害教訓の伝承～」をテーマにブース展示を実施しました。



北陸地方測量部展示ブース

展示では、自然災害伝承碑や土地条件図、活断層図、能登半島地震対応事例を紹介し、ウェブ地図「地理院地図」のデモ操作や赤青メガネを使った余色立体図を体験していただきました。ブースには一般参加者から防災関係者まで幅広い層の方々約210名が来場し、活発な意見交換を行いました。

来場者からは、「地理院地図をいつも活用している」「1mDEMの整備範囲拡大に期待」「自然災害伝承碑の情報提供に感謝」など、地理空間情報の重要性を再認識する声が多数寄せられました。



ブース展示会場

このほか、「火山防災の日」啓発イベントにおいて、国土地理院もセッションに共催しました。セッション会場では、火山基本図・火山土地条件図(「新潟焼山」)の展示やパンフレットを配布し、火山防災啓発に努めました。

次回の「ぼうさいこくたい」は、令和8年10月に鳥取県倉吉市で開催予定です。

国土地理院は、こうした防災イベントへの参加を通じて、防災力向上と関係機関との連携強化を進めてまいります。

(北陸地方測量部)

教科書・教材出版社への国土地理院の取組の周知のための説明会を開催

国土地理院では、地理教育支援の取組として、「地理教育の道具箱」などを通じた防災・地理教育に関する国土地理院のコンテンツの提供のほか、平成28年度から教科書・教材出版社を対象とした「国土地理院の取り組む教育支援の説明会」を開催しています。今年度実施した説明会の概要を紹介します。

説明会について

この説明会は、教科書・教材出版社に国土地理院の防災・地理教育支援の取組や関係するコンテンツを知っていただき、教材に反映されることでよりよい教育サービスの提供に貢献することを目的とし、令和7年度で10回目の開催となります。

また、説明会に先立ち国土地理院の業務を理解していただくため、当日午前中に日本水準原点や電子基準点「東京千代田」の施設見学を実施しました。

説明会の日時・参加者

- ・日 時：令和7年11月19日
13:00～16:00
- ・参加者：5社・15名

説明会の内容

- (1) 国土地理院の地理教育支援
 - 1) 地理情報を使った学びの素材集 ～地理教育の道具箱～
 - 2) 防災地理教育のトピックス ～ハザードマップポータルサイト～
 - 3) 国土地理院が提供する地図情報 ～3次元地図の紹介～
 - 4) 国土地理院が提供する位置情報 ～電子基準点～
- (2) 【文部科学省による講演】学習指導要領社会科・地理歴史科において求められる地図や地図の利活用について
- (3) 防災・環境教育に関する取組の説明
 - 1) 国土交通省の防災教育・河川環境教育に関する取組
 - 2) 気象庁の防災教育に関する取組

例年と同様、「社会（地理）」担当の参加者が多く、国土地理院の防災・地理教育支援への取組が期待されていると感じられました。

また、参加者からは、「『地理教育の道具箱』のリニューアルによりとても分かりやすいユーザーインターフェイスになった」、「電子基準点は地震による地殻の動きと地震の関係をわかりやすく示すことができる」などの意見が寄せられました。



国土地理院による説明



電子基準点「東京千代田」の施設見学

教育現場を支える教科書、副教材、デジタル教材等を作成する教科書・教材出版社の方に、国土地理院の地理コンテンツを知っていただく取組として、令和8年度以降も継続して説明会を開催していきます。

説明会の資料は以下でご覧いただけます。
「令和7年度国土地理院の取り組む教育支援の説明会」

(<https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOU/IKU/R7kyoukashoshuppansha.html>)

(防災・地理教育支援事務局(応用地理部))

第249回地震予知連絡会の開催概要

令和7年11月27日に関東地方測量部において第249回地震予知連絡会がオンライン会議併用形式にて開催され、全国の地震活動、地殻変動等のモニタリングについての報告のほか、重点検討課題に関する報告・議論が行われました。

地震予知連絡会では、地震予知研究にとって特に検討すべき課題を「重点検討課題」として選定し、報告とそれを基にした議論を行っています。今回は「能登半島地震から2年～理解の現状と残された課題～」を課題として、以下の①～⑤の報告がありました。

① 令和6年能登半島地震の強震動と強震記録に基づく震源過程

令和6年能登半島地震(M7.6)では、主として奥能登地域で強震や津波による被害が生じました。全国展開された強震観測網により得られた記録によると、強い揺れに長時間見舞われたことに加え、人口が集まる小規模平野での地震動増幅が顕著に見られました。また、強震記録を用いた震源過程推定により、破壊は珠洲市下から始まり、南西及び北東に破壊が伝播したことが分かりました。このような複雑な破壊過程が長時間の揺れを生じさせたと考えられます。

② 能登半島地震発生域における長期テクトニクスでの課題と断層掘削

日本海東縁地域では、伸長場から短縮場への応力の転換時期と持続性は未解明であり、能登半島においては過去数万年～10万年の応力場の変遷と断層活動の進化を明らかにすることが課題です。活断層・地質断層・岩脈などの構造データを用いた応力逆解析により現在の応力場の成立時期を解明するとともに、スリップテンデンス解析を通じた既存断層の活動性や断層活動場の成熟度を評価することが地震の理解につながると考えられます。また、現在計画中の能登半島陸上科学掘削計画(NEPTUNE計画)では、断層面近傍の流体圧・化学反応・摩擦特性の関連を解明し、将来的な地震予測の精度向上への貢献を目指しています。

③ 能登半島北東部の群発地震活動と流体

能登半島北東部では、2018年半ばから地震数が増加し、2020年末から活発化しました。2023年にはM6.5の地震が発生し、さらに群発地震活動域を震源とするM7.6の地震が2024年に発生しました。地震学的、測地学的、電磁気学的、地球化学的な研究結果から、一連

の地震活動には地下深部から上昇した流体が寄与していることが判明しています。現時点では、群発地震の原因となった流体が関与するような顕著な地殻変動や地震活動は見られず、地下の流体は平衡状態にあると考えられます。

④ 測地学的に見た令和6年能登半島地震と先行現象

能登半島では、2020年12月頃から群発地震を伴う非定常的な地殻変動が観測されました。地殻変動は、開口を伴うゆっくりすべりで説明でき、流体の関与が示唆されています。令和6年能登半島地震では、既存のセグメントに沿ってすべりが発生しました。西端は2007年に発生した地震の断層東端付近に位置します。余効変動は、粘弾性緩和と余効すべりが大きく寄与しています。余効すべりは地震時すべりと相補的であった可能性があります。

⑤ 冷たい沈み込み帯としての中部日本と能登半島下でのスラブ深部脱水

中部日本下は、流体供給が多く低温であり、火山フロント・火山帯の屈曲や能登半島下の深部脱水が見られます。能登半島下の深部脱水による流体供給は、今回の地震・地殻活動の誘因になったと考えられます。数百万年前からの圧縮場と流体供給が能登半島の形成(陸化)に寄与しており、今後も長期的に継続すると予測されます。また、東京大学地震研究所の岩森教授らの研究グループが地下流体をとらえる新しい手法として「Geofluid Mapping」を開発しました。これにより地下の流体種、量、連結度、圧力を定量的にとらえることが可能となり、地震・火山活動の中長期評価への貢献が期待されます。

○次回の会議開催予定

第250回地震予知連絡会は、令和8年2月20日(金)に開催予定です。また、次回の重点検討課題は「熊本地震から10年 – 地震像と今後の課題 –」です。

○会議資料の公開

本会議の資料は、地震予知連絡会ホームページから公開されています。

<https://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/activity.html>

(地理地殻活動研究センター)

2025年日本第四紀学会 若手・学生発表賞を受賞

地理地殻活動研究センター地理情報解析研究室の吉田^{よしだ}一希^{かずき}研究官が、2025年日本第四紀学会 若手・学生発表賞を受賞しました。

日本第四紀学会2025年大会が、8月28日から9月1日まで島根県松江市の島根大学で開催され、「0.5mDEM地形判読に基づく大山火山の鳥越峠付近における推定火口列の発見」のポスター発表を行った吉田研究官が、2025年日本第四紀学会 若手・学生発表賞を受賞しました。

なお、受賞の対象となった発表は、鳥取県が2025年3月にオープンデータとして公開した「数値標高モデル(DEM)0.5m」から、大山の鳥越峠付近で火口列と推定される地形を判読し、現地調査した結果を報告したものとなります。

また、対象となった発表の要旨は、下記URLのPDFファイル上の47ページで参照可能です。

<https://sites.google.com/view/2025jaqua/%E8%AC%9B%E6%BC%94%E8%A6%81%E6%97%A8%E9%9B%86>



地理地殻活動研究センターでは、引き続き様々な研究を着実に取り組むとともに、積極的な研究成果の発表を進めてまいります。



2025年日本第四紀学会
若手・学生発表賞を受賞した吉田研究官

(地理地殻活動研究センター)

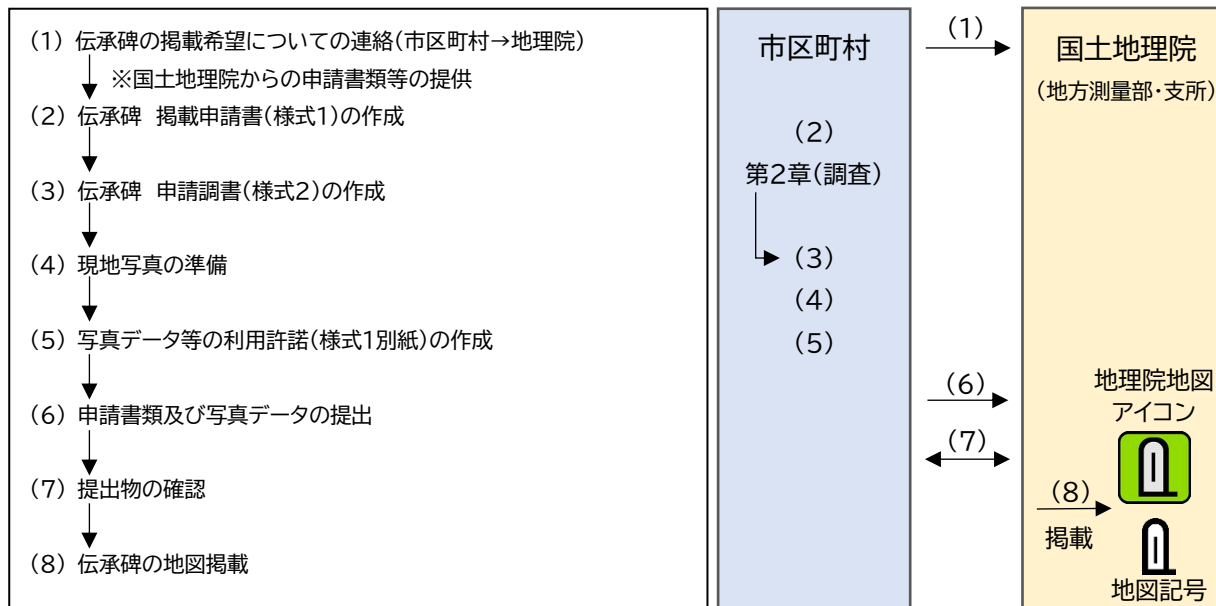
○「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数

令和7年12月25日現在

47	都道府県	672	市区町村	2403	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>)をご覧ください。
[市区町村の担当者の皆様へ]自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第6版(令和6年3月)」(https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html)をご覧ください。

○11月の報道発表

発表日	件名	担当部署
10日	令和7年10月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
12日	佐呂間町と「地理空間情報の活用促進のための協力協定」を締結しました	北海道地方測量部
14日	太陽フレアによる11月12日のGNSS測位への影響	企画部 測地観測センター
26日	「G空間EXPO2026」を1月28日～30日に開催します！ ～今年度のテーマは「G空間がつなぐ、広がる、未来が変わる」～	防災・地理空間情報企画センター
27日	令和8年測量士・測量士補試験の日程を公表	総務部
27日	点群データの刊行範囲を初めて拡大 ～能登地方などを追加～	基本図情報部
28日	令和7年度 国土地理院関係補正予算について	企画部

報道の内容は、国土地理院ホームページ>2025年 報道発表資料一覧

(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2025.html>)をご覧ください。

○1月の主な行事予定

月日	行事
1/4～2/15	地図と測量の科学館 企画展「第29回 全国児童生徒地図優秀作品展」
1/5～1/22	令和8年測量士・測量士補国家試験 受験願書受付

国土地理院広報は、
国土地理院ホームページ>広報誌>国土地理院広報
(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/>)に掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

〒305-0811 茨城県つくば市北郷 1 番
TEL 029-864-6255
FAX 029-864-6441



連絡先: 総務部広報広聴室
国土地理院ホームページ
<https://www.gsi.go.jp/>